

### 第3回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 会議録

日 時：平成28年11月29日（火） 午後3時～5時30分

場 所：青少年スポーツホール2階 会議室

出席者：○協議会委員 17名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、増田委員、小野委員、原山委員、  
寺田委員、岡本委員、藤本委員、中谷委員、市川委員、中西委員、井筒委員

東委員代理：和田氏、三崎委員代理：藤原氏、

北野委員代理：仲野（まちづくり政策部次長代理兼まちづくり推進課長）

○事務局 2名

まちづくり推進課 坂口地域整備係長、竹内

○コンサルタント 2名

株式会社市浦ハウジング&プランニング 小倉、西村

○傍聴人 2名

#### 会議記録

（事務局：坂口）

大変ながらくお待たせいたしました。

ただいまから、第3回富田林市金剛地区再生指針策定協議会を始めさせていただきます。

皆様方には、何かとお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

私は、本日司会をさせていただきます、まちづくり推進課の坂口でございます。どうぞよろしく  
お願いいたします。

早速ですが、議事に入る前に事務局からお知らせがございます。

本協議会は、本市の「会議の公開に関する指針」により公開することになっており、会議録作成  
のため録音と写真撮影をさせていただきますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、会議録につきましては、発言者の氏名も公表して作成することについてもあわせてご了承  
願います。

なお、本日は2名の傍聴を希望される方がお越しになっており、既に入室していただいております  
ことをご報告させていただきます。

傍聴をされる方をお願いいたします。本日の協議会資料と一緒に配布しております「会議の傍聴  
に係る遵守事項」を守り、議事の円滑な運営が行えますようご協力をお願いいたします。

つづきまして、本日の資料のほう確認をさせていただきます。

事前に皆様に郵送させていただきました資料の中から、A4縦のレジメのほう第3回金剛地区再生指針策定協議会とかかれたもの、それから資料1と2、前回の協議会と別で開催させていただきました意見交換会のまとめ資料となっております。それから資料3のほうA4横の資料となりますが、再生指針策定までの流れということで、これまでの経過と今後のフローをまとめた資料になります。それから資料4と5ですが、A3の横書きの資料になります。再生指針の骨子というA3裏表の、A3二枚の分です。資料5としまして金剛地区の将来および取り組みイメージについてというカラーのものになっておりますが、皆さん抜け漏れ等ございませんでしょうか。お忘れになられた方等おられましたら、別で準備しておりますのでお声掛け、はい。それともう一つですね参考資料といたしまして、大阪大谷大学さんにお問い合わせしましたまち歩きワークショップの資料を別冊で付けております。よろしいでしょうか。

本日、18名の委員様の中で、吉村委員様今日欠席というご連絡をいただいております。それから社会福祉協議会の東委員様も所用で欠席ということで和田様に代理で出席いただいております。大阪府の三崎委員様につきましても所用で欠席ということで、藤原様に代理で出席いただいております。北野部長なんですけれども、ちょっと体調を崩しております、仲野のほうに代理で座らせていただきますので、よろしく申し上げます。

それでは、議事のほうに進ませていただきますが、この後の議事進行は、設置要綱第5条第1項により、会長が行うこととなっておりますので、増田会長どうぞよろしくお願いたします。

(増田会長)

それでは皆さん、こんにちは。早いもので第3回になります。今年もあと残すところ一ヶ月ですけれども、よろしくお願したいと思っております。本日の議事ですけど、お手元にございますように、これまでのおさらいと今後の流れから次回協議会まで、4件ございますけれども、まず最初にこれまでものおさらいと今後の流れ。これ少し意見交換会途中でやっていたり、前回から少し時間が経っているので、思い出す意味も兼ねてお話をいただいた後、2、3ですね、金剛地区再生指針の骨子(案)とまちの将来像についてご説明いただいて、この2、3を中心に17時を目標に議論をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願したいと思っております。

それでは、さっそくですけども資料1、2、3を用いて、これまでものおさらいと今後の流れについてご説明いただければと思っております。よろしくお願いたします。

(市浦H&P：小倉)

市浦ハウジング&プランニングの小倉でございます。説明させていただきます。

まず、資料1でございますけれども、これはこの会議前回9月2日でございました。で、議事録等すでに見ていただいているかと思っておりますけれども、内容といたしましては、金剛地区活性化に向けた取り組みと、具体的な取り組みの中身についての幅広いご意見をいただきました。2、3、4ページあたりに記載しております。

で、その次に資料2のほうですけども、意見交換会のほうを10月16日に開催いたしました。この時は内容としまして、少しざっくばらんな話を、この指針に盛り込めるかどうか分かんないけどしてみたらいいということで、特にご意見が多かった駅前の話。それと中央公園の話。それと寺

池公園の話。それとピュア金剛を含めた空き施設の話。そういった4つのテーマですね、公園を2つをまとめるとしたら公園で1つでしたら、3つのテーマについて、グループに分かれて、グループディスカッションをいたしました。

で、その内容につきましては、議事録目を通していただけたらと思うんですけども。駅前の施設等の話。それと公園については、中央公園の方と寺池公園それぞれキャラクターに合ったような意見が出たところがございます。

空き施設のほうは、空き施設を具体的にどういうふうに使いたいか、あったらどういうふうに使いたいか、誰がやるか、というような話についてのご意見をいただいたところがございます。

で、資料3の方、先ほど資料2で今ご説明しました意見交換会での意見を基に、今日あとの資料5にありますけども、まちの将来像のイメージ等の議論につなげたいと思っております。

それで資料3ですけれども、これまでの流れと今後のまとめて書いております。本日は右側の協議会の第3回に当たります。中長期的なまちの将来イメージと、それと金剛地区の再生指針の骨子の議論を中心にしていただければと思っております。

で、この後ですけれども、12月の17日ですかね。第4回の意見交換会がございます。その後1月に協議会がございます。この2回で、再生指針の内容について、素案については、主に議論いただきまして、そこで一旦取りまとめてパブリックコメントのほうに入ると。で、パブリックコメントを経て、最終的に意見交換会を第5回、協議会も第5回、最終3月に行いまして、再生指針の案の取りまとめというところまでいきたいと考えております。説明は以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ただいまご説明いただいた内容ですけれども、既に資料1、2は既にホームページでも公開されているということですので、何かお気づきの点があれば事務局のほうにお伝えいただければと思います。

で、今後の進め方が資料3ですけれども、今日3回目で、先ほどご説明ありましたように、中長期的なまちのイメージと再生指針の骨子の意見交換を今日させていただいて、もう一度12月に意見交換会を経て、1月に第4回の再生指針のとりまとめのための策定協議会を開いて、それで一旦とりまとめをして、パブリックコメントに諮って、3月末にはとりまとめたいと。こんなスケジュールやということですが、何か今後の進め方に関して、ご質問等ございませんか。よろしいですか、こんな形で進むということ。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。それでは、両カッコの1これまでのおさらいと今後の流れは終えまして、今日の本題であります、金剛地区再生指針の骨子(案)とまちの将来像について、ちょっと固まって2、30分かかるとは思いますけど、ご説明のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

(市浦H&P：小倉)

そしたら、資料4の方をお開き下さい。金剛地区再生指針の骨子ということでまとめています。まず、一番最初に金剛地区再生指針とは、ということで、以前にも一度お出ししている資料ですけど、簡単にまとめております。まず、背景と目的ということで、この地区で少子高齢化等のニュータウン問題が顕在化しているのです、このような課題を解決してですね、新たな人々が集い・暮らす

ことのできるまちとして魅力向上させていくためというようなことでやっています。

で、2番目に再生指針の位置付けといたしましては、金剛地区に関係する皆様が一丸となって地区の再生・活性化に取り組むための方向性を共有するビジョンということで書いております。

3番目に計画の期間ということで、金剛地区の都市基盤と建築物というのは2040年頃に更新時期を迎えるということが想定されますが、この指針では将来像実現の取り組みとして、10年後を見据えたものとします。将来的なところを見据えながら、10年後を見据えたものとするという形です。

次に金剛地区の魅力と克服すべき課題ということで、これも今までにご意見賜ったところで、大きくこれは骨子ですので、代表的なところで5つに分けております。

1つ目ですね、住民の安全安心な暮らしを支えるサービス等の充実が必要ということで、高齢化ということ、それと坂道が多いまちで商業機能が低下しているということ。それと防災組織等の取り組みにはやや差があるということ。

次に住宅タイプが限定的で、あまり選択肢が多くはないというようなことが新住民が転入しにくいという状況になっているのではないかなと、2番目に書いております。

3番目はですね、開発当初に整備された住宅や生活基盤が老朽化しているということで、空き地や空き家などの活用可能な資源があるというふうにも捉えられます。道路、公園、緑地などの整った基盤はあるんですけれども、時代のニーズへの対応が望まれると書いてあります。

4点目に、住んでる方はそれだけ40年間で歳を取られているわけですが、あと社会も変化しております。それらに対応したまちの機能の多様化が必要ということで、昔のベッタウンからですね、そういった変化に対応したまちに転換する必要があると。で、商業機能の低下などで住民ニーズに答えられていないという面があります。

5点目にですね、活発的な地域の活動があると、ただ一方で住民同士の交流の機会等が不足ということで、自治会さんとか地域活動団体さんの方で活発な活動がありますけれども、その団体間のつながりとか交流とか決して多くはないということ。それと自治会等の含めてですね、活動するようなスペースが不足気味ということ。アンケートを取ると、地域活動に参加してみたい住民の方は非常に多いというようなことが書かれています。

で、これらを受けまして金剛地区の目指す将来像ということで、テーマ、キャッチフレーズ丸丸と書いていますけれども、これ何か一つ大きく看板を掲げるようなものがあつた方がいいんじゃないかなということで、今なら特に書いておりませんが、そのあたりのご意見いただければなと思います。

で、内容の柱としてはですね、前回でもお示しして、意見交換会でもご意見いただいたものを少し、そのご意見を基に再整理いたしました。

で、1つ目がいきいき、健やかな「暮らし」ができるまちということで、高齢者、子育てを始めとして、誰もが生きがいを持ち、いきいきと健やかに安心して暮らすことのできるまちを目指すことが将来像の4つの柱の1つ目です。

2つ目が、多様な「住まい」のあるまち。先ほど言いました、若年世代の定住ということと、地区の住民の方の住み替えというようなことも考えて、住まいの選択肢が多様なまちを目指す。

3点目が豊かで多機能な「場所」のあるまちということで、住民が地域での楽しみや暮らしを豊

かにする多機能なまち、そういったようなことができるあるまちというのを挙げています。

4点目が住民がまちを育む「仕組み」のあるまちということで、地区の住民や行政など地区に関わる人々が一丸となって活動を行い、常に発展し続け、新たな魅力を創造することができる。そういう仕組みのあるまちですということで、大きく暮らし、住まい、場所、仕組みというキーワードを挙げております。

これらの4つの柱のそれぞれの具体的な取り組み項目について、次のページを開けていただけますでしょうか。2ページ目に将来像実現のための取り組み項目をまとめております。中にですね、短という字と中長期と書いています。短は短期で3年以内。中長期は3から10年くらいというようなことで分けております。

まず、1番目いきいき、健やかな「暮らし」というところで言いますと、目標の1の1として高齢者等が安全安心に暮らせるまちということで、内容としましては暮らしを見守るということ。買い物や移動などの日常生活を支えるということ。3点目に交流とか生きがいづくり、健康の維持などを支えるということが書かれています。目標の1の2として子どもがいきいき育ち、安心して子育てできるまちということで、それについての取り組みとして3点。1つ目が地域一体となって子どもや子育てを支える、子どもの居場所をつくる。で、2点目が創造的で豊かな学びの場、いきいきした遊びや運動の場をつくる。3点目が子育て中の親の交流や社会参加を支えると書いています。目標1の3として防災・防犯面で安心して暮らせるまちということで、これはいずれも地域で単位自治会さんとかでやられているようなやつを地域一体としてやっていくということで、防災活動、防犯活動を強化していくということを書いています。目標1の4ということで、生きがい・やりがいを持ち健やかに暮らせるまちということで、取り組みとしては2つほど。1つは文化・創造活動、生涯学習、健康増進など、住民のニーズにあった活動やサービスを充実させるということ。2点目が仕事やボランティア、コミュニティビジネス等のできる環境をつくるということがあると思います。

2番目、多様な「住まい」のあるまち。で、目標の2の1ですけど、若い世代が移り住んでくるまちということで、取り組みとしては2つほど。1つは、若年ファミリー世帯等のニーズに応じた新築住宅の供給促進。2点目が賃貸住宅や戸建住宅の改修や建て替えにより多彩な住宅の供給を促進。目標の2の2としてですね、ライフステージに応じて住み替えられるまちということで。これ上の再掲になりますけれども、賃貸住宅や戸建て住宅の改修や建て替えにより多彩な住宅の供給を促進する。2点目に住み替え希望者と住まいのマッチングと書いております。目標2の3ということで、住まいの改修や更新により、住まいが循環・流通しつづけるまちということで2つ挙げております。1つ目が分譲マンションの建替えや改修に取り組む。2つ目が空き家のリノベーション等による流通を促進するとなっております。

3つ目が、豊かで多機能な「場所」のあるまち。これにつきましても、目標3つ挙げております。目標3の1生活サービス施設や、豊かな時が過ごせる施設の充実したまちということで、これに対する取り組みとして2点。1つは既存の商業施設を再生する、あるいは新設する。2点目が、既存の分化・運動施設の再生等を行うとなっております。目標3の2として、特に空き家や空き施設の有効活用ということを特に挙げております。で、これは街中で色んな活動が行われるように学校とか商業施設の空きスペース、空き家等を有効活用すると書いております。目標の3の3として、憩

える、楽しめる広場や通りのあるまちということで、1番目に駅前から中央公園までの間、まちの顔として、豊かな時が過ごせ、交流の生まれる広場、施設が連担した通りとするということです。2番目に、それ以外の地域のメインストリートも愛着を持てる通りに再生するという。3点目が金剛中央公園については、このあたり意見交換会等でも意見が多かったところの意見をまとめますと、イベントや住民参加プログラムが行われる交流拠点となっております。で、寺池公園についてはですね、住民参加で再生・維持する、水辺と緑を楽しむ公園とするというようなことしております。

4点目の仕組みの部分でございますけれども、目標の4の1ということで多様な交流の機会により、人、コミュニティ、地域魅力が成長し続けるまちということで、交流ということ 키워ドとして挙げております。交流の中身としてはですね、住民同士の交流ですとか、2番目が世代間交流。3点目が周辺地域との交流や歴史文化に触れるということ。それと4点目にですね、そういった多様な交流が生まれる居場所をつくるという話になります。目標4の2として、住民等が主体となった活動、そういった活動自体が地域の生活を支えたり、あるいは新たな魅力を創造するまちということで、まず1番目に地域活性化の取り組みを企画・実行するとともに、地域団体等の枠を超えた情報・意見交換の場となる組織を設立する。2点目にまちづくりの中心拠点となるような場所。3点目に地域と一体となった、この前バルあったところですけども、祭りやイベントを開催して、そういうのを再生まちづくりのきっかけとする。4番目、地域活動など、地域の魅力を発信する。5点目がですね、コミュニティビジネス。そういうのを支えるための仕組みをつくっております。目標の4の3としてですね、これは中長期的な視点になりますけれども、時代の変化にあわせて、まちづくりのルールを考えるとということで、多機能なまちへの転換にできるように法規制つていうのを考えるべきというところがあります。2点目に開発当初から守られてきた景観を守り育てるとともに、建替えや改修時のルールについて、地域で検討するというようなことが出てきます。

以上ですね、これまでの意見でキーワードとしては、いろいろ揃ってきたところをまたちょっと再度整理しなおしたという形にはなりますが、以上がこの再生指針の1番根幹になると取り組み項目であると思います。もちろんこの丸番号の下にですね、もう少し説明はきちりと本番ではいたしますので、ちょっと物足りない表現になっているところもあるかもしれませんが、骨子としてはこういう形になります。

で、1ページの方に戻っていただきまして、この取り組み項目をですね、具体的に実現するためにということで、4番目の項目として丸1番リーディングプロジェクト。これについては、次回の意見交換会で再度ご議論いただいたことを基に、目の前でまずできることは何だろうかということ挙げていただきたいと思っております。2点目は推進体制ということで、これ以前にも出しておりましたけれども、金剛地区まちづくり会議ということで、これは簡単に言うと、今意見交換会、或いはこの協議会等でやっているこの会議をさらに必要なメンバーを加えたりというようなことで、発展させて具体的なまちづくりの活動をできる体制をつくっていかうというようなことでございます。このあたりについてもものちほど、ご議論いただければと思います。

ちょっと説明時間が長くなっておりますけれども、資料5についても簡単にご説明させていただきます。

1枚目は現在のまちの姿ということで、細かい説明は割愛いたしますが、これまでまちの課題と

して挙げていただいているところ、あるいは既に右の1番下にあるように、URの賃貸住宅とかで取り組みが始まっているところとかも書いてあります。これは見ていただければ分かるかと思えますけれども、説明を割愛させていただきます。ちょっと資料の見方だけなんですけれども、この中で、言葉で書いてますけれども、ピンク色の小さい丸が生活利便施設。で、オレンジ色の丸は今取り組みをURの自治会さんのほうで始められている移動販売の拠点です。それと青い丸が既存の集会所です。

めくっていただきまして今のページの裏の面ですね、2ページ目。ここにまちの将来像、カッコ目標像ということで書いております。で、本日ですね、こういった中長期的なまちの姿みたいなことも1度議論してはどうかということで、前回いただいておりましたので、この資料につきましては、前回第3回の意見交換会でいただいた意見を基に、それを多少事務局の方でアレンジはしておりますけれども、つくったものでございます。

この中の図で書いている、地図で書いているところで、何を意味しているかと言いますと、まず金剛駅の駅前の今ふれあい大通りと名前が付いているんですが、あんまりこの名前も流通していないというふうにお聞きしていますけれども、やはりこのまちの1番の顔の部分っていうのは、まちの玄関口から中央公園に行くところですね。ここがまちにとっても1番大切なところじゃないかということで書いております。後ですね、その他にも主だった通りっていうのは、重要になってこようかということで、オレンジ色の破線でですね、と太い破線で書いているところ。このあたりが地域の先ほどの説明の中でいたしました、地域のメインストリートになるところかなということで書いております。で、ピンク色とオレンジと青の小さい丸については先ほどご説明したように、既存の施設とか既存の移動販売していたりとか、いうところ。で、その他少し大きめの丸で、ピンクですとか、紫色ですとか、あと公園のところはグリーンで塗ってありますけれども、このあたりはあくまでもイメージで、今以上にこういうようなところに例えばそういう人が集まる施設であるとか、生活利便施設とか増えたらいいのになんていうこと。これ場所は特に規定していません。ここじゃなきゃダメとかいうわけではなくて、イメージです。これぐらい増えたらいいのになんて書いています。で、あとですね、細い破線でオレンジ色の破線で細かい道路を書いているところも、これもイメージなんですけれどもメインとなる通り以外にも、そういった住宅地の中にも、今言ったような施設を結ぶような道っていうのは、今後そういう施設がまちの中に増えてきたら、重要になってきますねということで、ちょっとイメージで書いているようなところ。あと、公園として重要な寺池公園、金剛中央公園、その他公園のところもマーキングしております。

そういったまちの姿でどういったところが目標像としてなってくるかということで、左の上の方から言いますけれども。このあたりは先ほど骨子の中でもご説明したこととも重なってきますけれども、金剛駅前からこのふれあい大通りですね。センター地区という名前も勝手に付けていますけれども、銀座商店街とか連絡所等、このあたりですね。豊かな時を過ごし、交流が生まれる広場、施設が連担した通りということで、ちょっと海外の派手な写真が載っていますけれども。こういったちょっとした人々の交流というのが起こったり、イベントができたりというような、そういうようないわゆるパブリックスペースにしていったてはどうかということで書いております。

それとその次にまちづくりの中心拠点ということで、活動のスペースとか一元的な情報ステーションとかがこういったところにあってはどうかということで。以前の意見交換会ではピュア金剛の

あたりが1番いいんじゃないかというようなことは意見として出ておりました。

あと、生活を支える商業・サービスの充実というような。これ駅前付近にもいるんじゃないかとか、そういった意見が多く出ておりました。

で、その下に地域のメインストリートということで、愛着の持てる通り、愛称のある通りとか。これちょっと事務局で勝手に書いておるんですけども。例えば先ほどのふれあい大通りの名前さえ流通していないっていうのがあれなんですけど、そういったまちの通りに名前が付いているようなまちがいいんじゃないかという点を書いてあります。それと沿道に小規模な店とか施設などがあつたりですね。今移動販売やられてますけれども、そういったマルシェみたいなそういうのもできるようなスペースがあつたり。あるいは、このまちの特徴として団地のところに大きい法面が結構ございます。法面って斜面ですね。そういったところが今も緑化されているんですけども、そういったところを花壇的にしたりとかですね。だいたいそういったところはURさんの土地の中ですので、勝手にこういうこと書いてあれかもしれませんけれども。例えばそういうふうになってもいいのかなということで、勝手ながら書いております。

で、あと右の方にいきまして、中央公園につきましては誰もが参加できるプログラムがあるところ。で、健康づくりや学びの拠点。各種イベント等が行われる交流拠点というようなことが、これまでの意見を要約するとこういったところになるのかと思います。

寺池公園につきましては、住民参加で今鬱蒼としているところなんかはもう少し見通しがいいようにしたりとか、みんなで手作りしていこうじゃないかというような意見もありました。ものとしては水辺と緑を楽しむようなイメージですね。がいいのではないかといった意見がございました。

その他の公園も、今使われる公園、今なかなか使われていない部分もあるので、使われる公園にしていくとか。

あと、多様な住まいということでいろいろな住まいがあるまちということが挙げられています。そこには、新築戸建、マンション、高齢者向け住宅等々、意見のあつたところを基に書いておられますけれども、いろんな住まいがあるようなまちがいいのではないかと書いておられます。

次に空き家とか空き施設、空き地の活用ということで、先ほどまちづくりの中心拠点がまちの中央にあつたらいいんじゃないかということで書いておりましたけれども。空き家とか空き施設とかでこういうまちづくり拠点のサテライトになるようなものが、まちの中に数多くあつたらいいのではないかと書いておられます。

で、最後に守り育てる住環境と魅力の向上ということで、生け垣とか石積みとかそういう古くから親しみのある景観の保全とか。建替えや改修をする時のルールとか。あるいは、先ほども言いました空き家の利用等によって身近な居場所とか交流の場を充実するというので、まちの魅力がアップするんじゃないかというようなことを挙げておられます。すべての意見を網羅できている訳ではありませんけれども、特に多かった意見を基に、1枚のペーパーにまとめるところかなということで書いておられます。それ以降のところは、今挙げたまちの将来像に関連するような事例を少し事例集として挙げておられます。ここから事前にお配りしたやつから資料を増やしておられますので、今日座席の席のところ、テーブルに置いてあつた資料を見ていただきたいんですけども。最後のページが13ページになっているやつです。1番最後が13ページになっている方を見てください。もうざっとだけご説明いたしますけれども、3ページからですね。



まず、地域のまちづくりの中心拠点の例として、これ松山市の方にある事例で。みんなの広場っていうのが右上にある写真ですけれども、コインパーキングだった場所にみんなが集える場所をつくったというのと。それがまちの中心の拠点の横にあるということで、よく使われるというのと。あと、このもぶるテラスって書いてあるのが多目的スペースですね。いろいろな活動で使えるような空きスペースというようなことでつくられている事例です。で、この松山の事例のアーバンデザインセンターというのが、松山市と民間企業それと愛媛大学を中心とした大学が三者一体となった連携のプラットフォームということでつくられているという、そういう組織的にも特徴のある事例です。

次の4ページですけれども、これは泉北ニュータウンの茶山台ですね。で、近隣センターなんです、実は。近隣センターの空いている、スーパーの空いた後のところに高齢者向けの施設を福祉事業者さんがつくられてですね。ただその中にこの写真にあるような、オークカフェとか言ってこういう大きいカフェとかですね。あるいは、右の方にあるマーケットとか共用生活室とか。そういうようなものを併設されて、ただの高齢者向け施設だけではなくて、地域の方が使えるスペースになっているというのが、身近な泉北ニュータウンの方にあるということで、ご紹介しております。

次の5ページ6ページあたりは、仮設的な利用なんですけれども、これは空いているスペースに、区画整理事業をやっているところで空いているスペースのところで、こういう貸しスペースとか地域の方が活動に使えるようなコンテナボックスを置いて利用している件でございます。

次の6ページ。これはお店なんですけれども。地方の駅前なんですけれども、創業のチャレンジですね。例えば、カフェをやってみたりとか、カフェをチャレンジでやってみるというようなスペースをつくっている例が左側です。で、右側がこれは泉佐野なんですけれども。泉佐野で空き店舗を使って、これも創業のチャレンジですね。経営のプロのアドバイスを得ながら、事業のノウハウを習得するというのをやられている地域です。

次の7ページです。これは参考までにですね。これはリクエストがあっっておつくりしているんですけど、金剛駅は乗降人数が3万5千とけっこう大いんですね。同じ3万5千くらいの駅で商業施設ってけっこうあるんじゃないかということで、調べてくれというようなお話もございましたので、調べました。1番上の金剛駅のピンク色に塗っているのは、商業系の施設で、皆さんご存知の通りあまり多くはございません。同じ3万5千とかそれより少ないクラスでも、和泉中央とか北千里とか、それぞれターミナル駅になっているという特性もございますけれども、周辺に大学があるとか、そういったような違いはございますが、こういった同じような乗降人でも商業施設するのは事例としてあるということのご紹介です。

続いて8ページからは公園のお話に移ります。泉佐野丘陵緑地というのは大阪府営の公園で増田先生がかかわってやられている事例を乗しておりますけれども。市民参加で、この大きい公園づくりをやられていまして、パーククラブというボランティア団体があって、そこにパークレンジャー養成講座を受講したらメンバーになれるということで、現在100人以上のメンバーの方がおられて、その方々がメンテナンスしたりとかいろいろ取り組みを、ちょっと私も詳しく存じ上げないので、必要に応じて先生にまた補足していただきたいんですが、公園づくりをしてこられた事例です。8ページの方はですね寺池公園でみんなで公園づくりをしようというようなご意見がありましたのでそのイメージでつくりました。

9ページの方は、今度公園の利用の方なんですけれども。これも泉北ニュータウンの泉が丘の駅のすぐ近くのところにあります大蓮公園という公園です。ここでは泉北ニュータウンの再生事業に取り組みられておまして、その一環としてまちの住みかを楽しもうということで、公園の中で様々なプログラムをされています。右の方にある緑道ピクニックとか、これ年何回かされていたりとか、あるいは下の方にあるグランピングっていう最近話題の公園でちょっと優雅なキャンプをするようなですね。このような様々なイベントがされておまして、非常に賑わっているというふうに聞いております。

10ページからは学校の空き教室の活用の事例です。上の方は、空き教室を生涯学習ルームへ転用するというので。金剛の各小学校も開放していただいているところもありますけれども、そういった空き教室の活用の事例。それと下の方は小学校が1つ丸々空いたところでの事例なんですけど、アートセンターということでアートギャラリーとか芸術家の卵の人達が中でアトリエ借りてやったりとか、なんかも入っています。特徴的なのは一階の部分がフリースペースになってまして、地域の方が自由に使えるんですね。小学生が学校の宿題やったりとかですね。近くのママさんが話したりとかですね。いろんなことを思い思いにやっているスペースが付いているというような事例です。

次の11ページは、空き家の活用の仕組みですね。先ほど仕組みのお話をいたしましたけれども、これは川西市の郊外の団地ですね。金剛と同じような古いニュータウンな訳なんですけれども、そこで、企業さんとしては大和ハウスグループさんが支援されて相談窓口をつくって、そこで地域の自治会もかかわって、連携してこの空き家ネットという空き家についての相談窓口をつくってます。相談自体は専門家がかかわって、これは当社がちょっとかかわっているんで、当社のスタッフが入っているんですけれども。特徴的なのは自治会さんの方がこの運営に携わっていて、これまでは国の補助金使っていたのがこれからは自治会主体という形でやろうということで今取り組んでいる事例でございます。これが空き家の活用などに地域で取り組んでいる事例です。

それと実際に空き家を活用してどんなものになっているかという例で、同じ川西の方で、これの25 Caféという事例は空き家じゃなくて、店舗の2階が空いていると。兼用住宅なんですけど2階の部分が空いてるのでそこを貸してあげますよとかですね。花屋さんの中で店舗の中で空いているところがある。そういうところを地域の人に開放しますということで、地域でルールをつくって運用する事例です。右の方は神戸の方の事例なんですけれども、戸建て住宅を活用して喫茶店とかオフィスとかを使っている事例です。

最後、13ページですけれども、これは地域の団体の取り組みの事例でURの富田団地さんですね。金剛団地の自治会さんの方も、様々なここに書いているようなことをされているということなんですけれども。ここで、地域通貨というようなことで、地域通貨って何かっていうとこの地域の中だけで流通する通貨で例えば、高齢者の方のゴミ出しのお手伝いとか。それをやるとこの通貨、例えば10円とか決まっていて、そういったものに使えるように地域で発行しているというような例です。それとあと右の方にこのぼりワークショップとか書いておりますけれども、特に大阪芸術大学の学生さんが参加して団地などでアートイベントをされているというような事例です。ざっとになりましたけれども、以上関連する事例のご紹介でございます。説明以上でございます。

(増田会長)

はい、どうもありがとうございました。

ただ今少し時間がかかりましたけれども、ただ今ご報告をいただきました資料4、再生指針の骨子と、この資料4に関連しますけれども、その具体的なイメージということで資料5というかたちでご報告をいただきましたけれども、どこからでも結構ですので、資料4に関連してもいいですし、資料5に関連してもいいですから、どっからでも結構ですのでご意見をいただければと。

少し皆さん方に考えていただいている間に、今日ご欠席の吉村委員の方から、今日欠席をするので、皆さんの前で2点ほど少し意見を紹介しておいてほしいというのを預かっていますので、まずそれちょっと聞いておいていただいて、ご報告いただけますか。

(事務局：坂口)

事務局の方からご報告のほうさせていただきます。

吉村委員様から昨日文書をいただき、これだけは言いたかった、今日しゃべりたかったことということで承っております。

一点目は資料4の中で1番金剛地区の魅力と克服すべき課題の中で、ちょうど真ん中の開発当初に整備された住宅や生活基盤が老朽化という課題についてなんですけれども、これは課題ではあるんですけれども、老朽化ということを否定的な面だけでとらえるのではなくてですね、まち開きがあって50年経過して古くなったとはいえ、地区の景観とか魅力とかを作っている存在感とか値打ちとかを持っている面がありますよと、そういったところをですね、指針を書き込むにあたって肯定的な分、積極的な分と二面からとらえてしっかりと書き込んでほしいと、古いからダメだということではなくて、古い部分もいかしていきながらまちづくりをしていくのはどうかというご意見が一点です

もう一点はですね、4番金剛地区の再生の実現に向けての推進体制案というのがあるんですけれども、これはまだ案の段階なんですけれども、まちづくり会議を作ってはどうかというこの提案の中で、市の方が賛助会員という形で入っているんですけれども、積極的に市の方も構成メンバーとしてここに入って一緒にまちづくりをやっていきたいと思いますという趣旨のご意見をいただいておりますので、またこれ皆さんのご意見いただいてですね、来年からこの将来像・目標に向けた取り組みを進めるにあたって、行政の立場どうしていくべきかというところについても、ご意見をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

以上2点でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。資料4に関しまして、1番のところと4番のところにご意見いただいたということです。後、考える時間ちょっと皆さんとれたかと思っておりますので、どっからでも結構ですからご意見をいただければと思っておりますがいかがでしょうか。

(溝口委員)

29日のワークショップについては何か今日報告が。

(増田会長)  
学生さんの。

(溝口委員)  
別途報告が。

(増田会長)  
そうですね、別途の機会を持っていただくということで、まだ少しまち歩きをただけの状態、これから更にまちにどのような提案していくかというワークショップをしてここに一度ご報告会をしてくれるというようなスケジュールになっていますね、確か。はい、どうぞ。

(事務局：坂口)  
すみません。最後その他案件で報告させていただこうと思ってたんですけども、今まち歩きワークショップをして、来ていただいた方は、金剛連絡所の2階の方で簡単なまとめはさせていただいたんですけども、その後大学さんの方で公園とか商業施設をテーマに授業の中でもう少し追跡の調査というものをさせていただいておりますので、その発表を兼ねてですね、今、1月21日の土曜日の午前中ということで、大学さんと日程調整をしております、報告会というかたちで開催させていただきたいと考えております。こちらのほうですね、意見交換会の皆さんとこの協議会の皆さんにも案内のほう出させていただきまして、協議会、意見交換会とは別枠で、指針策定の参考とするために学生さんからご報告いただくという趣旨で開催したいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

(増田会長)  
よろしいでしょうか。そんなかたちでまだ途中段階なんで、きっちりした報告会していただけると。そこで少し若い人の意見も聞いて、この指針に反映したらいいんだろうと思うんですけども。よろしいですか。

(溝口委員)  
結構ですけども、今日の議題の中でね、この間ワークショップで若い学生と一緒に歩いて、やっぱり我々と感覚が違うなという部分が非常に多かった。例えば、寺池公園なんか、我々としたらあの樹木をいかした景観というのが感覚としてあるんですけども、彼らからすれば、もっともっここにも、先ほど報告あったように開けた公園にするとかいう感覚。あるいは、ショッピングについても団地内とか、金剛地区全体からしてもコンビニが非常に少ないと。いつでもどこでもすぐ買えるようなコンビニというのがどうしても必要だというのが若い人たちの感覚であるのかなと。それを今後この指針の中でどのようにそれをいかしていけるのかどうか、先ほどおっしゃったように、1月にこのまとめが別途やられるということであれば、それはそれで参考にしていければいいかなと思うんですが、たまたまこれが出てますんで、そういう意見もあったということで。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。はい、他いかがでしょうか。1月21日は、ここの協議会のメンバーと意見交換会のメンバーに声をかけていますので、そこで若い学生さんと積極的な意見交換をさせていただいて、盛り込めるべきものは盛り込んでいきたいということだと思います。

ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、中谷委員。

(中谷委員)

南海電鉄の中谷でございます。この金剛地区の再生議論の中で、当社の金剛駅のあり方についてもいろいろご意見をいただいているわけですが、ここでの議論だったり、まち歩きワークショップにも参加させていただいて、まちをふらふら歩きながら金剛駅の周辺の特長っていうところをずっと見てきました。で、金剛駅周辺が商業集積的に寂しいという意見が多いのかなと思うんですけども、考えてみれば計画的に街区形成されたまちでなければ、3万5千というこれだけの乗降客の駅前であれば、普通は民間で駅前が無秩序に開発されて雑然となった駅前になっていたのかなというふうに思います。で、当社の他の3万クラスの駅を見てもそんな状況です。逆に言えば、計画的に街区形成されたまちだからこそ、これだけの乗降客数の駅にあって、奇跡的に閑静で上質な駅前空間が維持されているとも言えますし。ここは大きな財産であるのかなと考えることもできるのかなというふうに感じてます。権利関係についても、普通の駅前と比較しておそらく輻輳してないと思いますんで、行政手法なんかも含めて上手く誘導していけば、上質な空間を維持しながらさらに利便性も合わせ持たせる空間をつくれる可能性を秘めている駅前であり、まちであるのかなというふうな思いがしてます。ただ駅だけ変わってもおそらくまちのイメージまでは変えるに至らないと思うので。また、金剛駅に当社の種地みたいなものがたくさんあればいいんですけども、薄っぺらい土地しか持っていませんので、ここの資料にもまとめてあったんですけども、駅、駅周辺、地区センターに至るこの空間をランドデザインを描く中で金剛駅の役割というか。例えば地域の方々だったりまちを訪れた人達が駅にあれば嬉しい。これが商業施設なのか、行政サービスなのかだったりっていうところをはめ込んでいくみたいな仕組みが、この財産を活かす重要な要素になるのかなというふうに感じています。あと、お客様のためには南海も当然まちの一員だと認識を持っておりますので、行政さんなり、URさん、地域の方々と一緒に考えていきたいと思ったり、やっぱりまちを歩いたりご意見をお聞きする中で、その行政区分の問題っていうところが大きいと思います。行政の枠組みを超えた取り組みだったり、連携だったりも避けては通れない問題なのかなというふうに思っております。当社にとって沿線の活性化というのは、ある意味生命線でありまして、今後も一緒になって議論を深めていきたいなと思います。これが数か月ご議論させていただいたり、まちを歩かせていただいて、今思っているところでございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

一つね大きな課題で、住民がまちを育む仕組みのある、仕組み関係すると思うんですけども、やはり市域を超えたところに駅前があるといったところで、少しその辺の市域を超えた連携のあり方みたいなやつは、どっかで課題出しなり、頭出しをしとかないとダメですよ。富田林さんがな

んぼ頑張っても、大阪狭山市さんとどう連携するかみたいな話は、どっかにやっぱり埋めとかんないかなんでしょね、ご指摘の通りね。

もう一つは、目標の3の3の1に入ってる、もうちょっと書くかですね。ようするに豊かな時が過ぎ、交流の生まれる「広場」「施設」が連担した通りと、このあたりでどう書くかですね。都市機能というふうに書くのか、今おっしゃった、商業機能と書くのか都市機能と書くのか、生活支援機能と書くのか文化機能と書くのか、ちょっとそのへん踏み込んだ、ここでいうように豊かな時が過ぎ、交流という概念でいいのか、もう少し機能的な話をちょっと位置付けとかあかんのか、これはまたちょっと皆で議論しないとイケないですね。駅前イコール商業という話ではなくなってきてることは確かですから。どんな書き方するかですね、ありがとうございます。そんなことですね、ご指摘は。

他、いかがでしょうか。

(友田委員)

今のところちょっといいですか。

(増田会長)

はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

三丁目の友田です。資料4の2の将来像で、暮らしと住まいと場所と仕組みってあるんですけどね。住まいってのは1つ分かりやすいことやと思うんですけど。ほんで、多様な場所って書いてまあ空間ですよ。空間をどうしていきましょうって話。それらをつくるための仕組みはどうしましょうという話になって。この1番のところがね、暮らしって書き方をして、暮らしという結局のところ住まいも入るし空間も入るし、全てを総括するような言葉にちょっとなって。実のところこなんやろうなあと考えるとね、いきいきとか健やかな暮らしを支える機能の話をしてるんじゃないかと。要するにまちに対してこういう機能をここでしっかりと持っていきましょうというような議論をここでしてね。さらにその中で住まいとか場所とか空間とか仕組み、そういったものをどういうふうにするかっていうことで。ここの1番のところは暮らしを支える機能とか、もう少し具体的にちょっと書いた方が、ちょっとぼやとしすぎてるのかなと1つ思ったのと。

1番最初のところの再生指針の目的なんですけども、1番上の背景と目的というところ。まちの活性化に向けた将来像を策定するんですよって書いていますかね。目的のところ。ここもまちの活性化のためじゃなくて、やはり魅力向上であったり活性化であったり。あと前のセンテンスの安全安心とか、人々が集い暮らすとか、そういうまちを目指すためにね。どういうまちをつくるんだというセンテンスをつくとね。やっぱりその暮らしをするまちの魅力を向上していくために活性化を目指すんですよじゃなしに、そういった集いとか暮らし、そういったものを魅力あるまちにするために、魅力の向上とかまちの活性化を目指しますと。そのために将来像示した指針を作成するみたいなセンテンスにした方がいいんじゃないか。ちょっと分かりにくいですかね。

(増田会長)

いやいや、分かりますよ。要するにどちらを目的に、どちらを手段にということやけど。最終的には活性化が目的ではなくて、最終的には住民が安心できて、安心できる暮らしを守り、また新たな人々が集い暮らすことができるまちになったらいいんやというふうに書いた方がいいんやないですかということやと思うんですけどね。活性化が目的ではなくて、そういう多様な人がここで豊かな暮らしが育めるようなまちになってもらったらいいと。それを活性化と呼んでいるということですから、書き方なんでしょうね。もう少しそういうのは分かりやすければ、それを掲げた方が分かりやすいかもしれません。まあそういう意味なんですよ。

(友田委員)

はい、そうです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。後あの先ほどのね、1点目は機能というかの、これ多分資料4の2ページ目はいきいき、健やかな暮らしができるまちっていうふうになってますけれども、1ページ目を見ていると多分サービス等の充実というようなことが克服すべき課題にありますよね。多分これは、いきいき、健やかな暮らしができるサービスっていうのが、機能というのがサービスをどう向上させていくのかというのが、多分そんなこと違うかというのが、高齢者にとってのサポート。それと子どもとか育児ということのサポート。それと多世代を含めたコミュニティ全体としてのサポートと。そんな見方ができるのかなと。多分前回も少し高齢者は高齢者だけ、子育ては子育てだけでやっていたら、多世代型のトータルとしてのコミュニティどうなるねんみたいな議論があったと思うんですけど。そういう面で目標の1の3とか1の4は、コミュニティ力というかこの頃よく言われる地域力をどう高めていきたいと思いますかみたいな話が1の3とか1の4なのかなと。その辺例えばちょっと1の3、1の4で地域力の向上とか地域力というような、あるいはコミュニティエンパワメントやというようなニュアンスとはちょっと違いますよね。そのあたり、どう1の3、1の4と整合させとくかということやと思うんですよ。防犯防災は1つのコミュニティ、地域力の向上という意味ですけど、それだけではないですよ。小野先生どうですか。

(小野委員)

はい、今の論点で行くとこの1番と4番の関係っていうのが整理が必要なんですよ。今1の方だけ見ると、今回最初に大きな切り枠として、1の方はどちらかというとサービス提供的な、さっき出てきたサービス提供的な意味合いが強くて。で、そういうサービスが受けられますよというふうな形で快適ないきいき穏やかな暮らしができるっていうようなイメージがあったんですが、内容を見ているとどちらかというところ、地域での支え合いでこういうこと、例えばひとり暮らしの高齢者を見守っていきましょうとか、子ども達を見守りましょうとか、防犯にしてもそうですよね。そういったイメージになってきてるんで、そうなるからこれがまちを4番のまちを育む仕組みのところと結構つながってきて、こういうのを通してこういうまちをつくりましょうというような印象になってきているんですよ。ですから住民参加型のものをどうつくるかっていうのが4番だ

としたら、1の方はもうちょっと、なんて言いますか、それこそそれによってなにが実現するのかという。そのあたりを少し書き分けるのか。あるいはそうじゃなくてももうちょっとここは整理できる話なのか。そこはもうちょっと検討は必要だと思いますので。いずれにせよ、4をやろうとすると自然とできるわけじゃないので、4がかなり強くなれば1のところは今の問題はかなり達成できそうな感じがしていますので、そのあたり1をあえて独立させるとしたら、ああやはりぜひここに住みたいなっていうものをここに持ってこられるかどうかという問題ですね。今のところこのあたりは他のところでもやれるんじゃないというような。ちょっと出かかっているんで、魅力というよりは最低必要なことですよってふうに言われちゃうかもしれないですよ。その整理がもうちょっと必要かと思いました。

(増田会長)

なるほど、分かりました。はい、ありがとうございます。ひょっとしたら1は、おっしゃるように規模とかこういうサービスが受けられるとか、こういうサービスが準備されているまちですよというふうな意味で整理した方がいいかもしれませんね。1はね。

(小野委員)

ここはほんとに皆さんのご意見だと思いますが。だからなんか特色をもっと持たせて、例えば高齢者なんかにしても、いろいろな家のタイプがありますからほんとに一人暮らしでも最後までいきいきとその人らしい生き方ができるぐらいのところを想定するのか。子どもなんかにしても、そうなるのかということも。あと先生がおっしゃった今だとちょっと縦割り感があるんです。もっと総合的にどんな人でもみたいな形のものが出せると、そういうような一体型でね、地域の中で一体型でどんな人でも暮らしができるようなまちとしての金剛なんだというのは、1つ新しい方向として見えるかなと。そういうサービスの仕方がありますよってということですね。

(増田会長)

だから少し目標1の1、1の2あたりはもう少し練り上げないということですね。その辺に関連してなにか、ご意見ございます。非常に重要なところで。

(小野委員)

岡本さんとか。

(増田会長)

そうやね。岡本さんなんかどうです。前も少し縦割り感ではなくて、世代交流とか、多世代型とかいうご意見いただきましたけど。

(岡本委員)

ぼーと聞いててすいません。そうだなと思っています。だから、人の暮らしを高齢者とか子どもってこう分けてしまわずに。分類せずにいろんな人がって言ったときに何やろうって、さっき中谷さ



んおっしゃってて考えて。文化的なんで誰でも、例えば子どもでも子育て世代の人でも集まれて、カフェがあって本がいっぱいあってみたいなイメージ。誰でも寄っていけるような場所みたいな。そんなことを今描きながら、お話しをずっと聞いてたんですけど、そんなことがここに書くと。防犯防災とか行政がなんか目的にしそうなことがなんかちょっと付いているなというイメージがあるんですけど、どうしよう。ということですよ。私なんかは、いやー結婚したら金剛団地に来たいわって思って、ここで子育てしたら働きながら子育てしやすいまちやとか。で、そこで子育ての世代が終わって、仕事して帰ってきてもただ寝に来る場所じゃなくってお父さんだって楽しい何かがあって、そして年老いていったときにそれでも居場所があって、まちと会社に通ってただけの関係じゃなくて、まちの人達とつながる場所があって、そしていよいよ動けなくなったとしても何かのサービスを受けれて、どっかに移り住んで息子のとか、行かないとみたいなことにならないまちみたいな。

(増田会長)

だから、ライフステージに応じて、こうやっぱりある意味周りから守られてるとか、見守られているとかという高齢者だけの話じゃなくて、なんかそういうふうなまちというんですかね。そういう書き方の方がいいかもしれませんね。ほんまに今で言うと、縦割り感がごつつあるもんですから。

他どうでしょうこのへんのあたり。暮らしてごつつ大事で、ベースになってくるようなところやけど。これやとまだ、金剛ニュータウンに行って、金剛に行って、住もうかという魅力的には見えないと。まあどこでもありそうやという話ですから。もうちょっと踏み込んだ。

(岡本委員)

ニュータウンっていっぱいあるのになんで金剛になったんやろうっていうのを、ちょっと思い浮かべようとしてたんですけど。

(中西委員)

僕ね、現状大阪市内にずっと住んでたんで、ここに来たとき正直あまりうれしくなかったんです。まあ不便ということもあります。ただ思った以上にアクセスはよかったんで、金剛から難波っていうのは。それとやっぱりその静かっていうか、住環境が非常にいい。やっぱり自分が商業者でありながら買い物は不便だと。ただ逆に商業者の立場から言うと、例えばピュア金剛が閉まりました。ということについて言えば、やっぱり購買力がないから、魅力がないっていうお店の問題もあるんやけども。逆にクローズマーケットなんですよ、金剛は。だからそこに大規模な施設とかっていうのはなかなか難しいかなっていうのは感じてます。可能性があるとするれば、ある程度の大きさのものであれば、やっぱり駅前しかないかなと。で、そうですね。僕は単純にその先ほどのおっしゃった中で1番ポイントになるのはやっぱり、若い女性、結婚する人が住みたいと思うまち。これがやっぱりポイントやと思うんです。で、金剛来てみんな静か、大阪市出るのも割と便利やしねって言うんやけど、結局マンションとか戸建にしても、それなりのものは金剛東まで行けばあるんやけども、金剛地区には今ほとんどない。住みたいと思うには。だからそのあたりが、やっぱりその物理的な問題ではあるんやけども、やっぱり解決していかないと。思います。

(増田会長)

なかなか言葉で表現しにくいんですけど、今南海電車の大阪府の住宅供給公社の宣伝出てますよね、見られたことがあります。都心のマンションとか新しいマンションみたいにゲーテッドコミュニティというセキュリティーのかかっているような団地じゃありませんよと、せやけどそこには人のつながりがあり、お互いの会話が存在してて、そういう魅力のある住宅なんですよというふうな宣伝をされてます。まさにそんなことやと思うんですけどね。最先端の設備ではないかもしれないけれども、ここでいう防災とか防犯に対しての安心感というよりも、むしろ住んでいるときに安心感があるというのは、やっぱり隣近所の人と顔を合わせて挨拶ができるとか、ちょっとした会話ができるとか、ちょっと相談事ができるとかというのが安心感で、何も防災とか防犯ではないんですよと思うんですね。それがひいては防災とか防犯につながっていくんでしょうけど。

だから、極端のことを言うとこれだけ高齢化社会になってきていますから、今中西さんおっしゃったように、今まで色んな文化的欲求とか色んな欲求は大阪市内で満たしてたと。せやけど、金剛で長時間過ごすようになって、毎日都心まで行かなくなったら、そこで時間消費できるまちにどうなったら、喜びながらどういう時間消費できるまちになったらいいんですよと、そんなことですよ、わざわざ難波まで行かんでも金剛の中で一日楽しめるとか、一生楽しめるとか、そんなまちになったらと。

はい、和田さんでしたよね。

(東委員代理：和田氏)

一時間前に課長からちょっと代わりに行ってと言われて出席させていただきました、富田林社協の和田です。資料は事前にこれまでの分もぎーと見させていただいて参加させていただいた中で、今の議論でいうところでいうと、この資料4の2の部分の4つのテーマ、何々があるまちというのが後の3つは続いているので、今の委員さんの意見を聞いていると魅力があるまちとか、そういうものに何とかのあるまちで統一してですね、ここに来る前に私がこのキャッチフレーズを考えるならばとあって、一つだけ考えてきたんですけど、住みかを書いて住みやすい魅力ある改革とか家とか、家を住みかの「か」に変えてキャッチフレーズとして持ってもいいんじゃないかなと思ってきたので、今の落としどころで言うと魅力があるまちとか、そういうのがいいのじゃないかなと思いました。

(増田会長)

今みたいな話で、この4つの統一した金剛地区全体としてどうやって発信していきましょうかというのは、この2番目で「目指すべき将来像のキャッチフレーズ」で、これどんどん皆さん方から意見をいただいて、こういうまちというのを皆のフラグシップっていうんですかね、旗頭にしてやっていきたいと思います。今、まさにそういう一つのご提案をいただいたということですので。

泉北ニュータウンもずっと座長してて、なかなかそのへんがなくて、結局「泉北スタイル」という言葉を作った。「泉北スタイル」という住まい方ができるまちにしましょうと。「泉北スタイル」って何なのっていったら、周りに農村部があるから農のある暮らしに非常にアクセスしやすいとか、そういう色んなチャレンジができるようなところを「泉北スタイル」と呼びましょうとか、何かそ

んなスタイルで住みやすさというようなところを皆で統一できないかなと、だから何かやってる時にはこれを「泉北スタイル」と呼びましようみたいな呼び方をしたんですね。そんなのにも通じるところがあると思うんですけど。

はい、どうぞ。

(友田委員)

皆さんの話を聞いていて、この4つの部分なんですけどね。一つ聞いていると、これからの郊外のライフスタイルっていうのは、今までのベッドタウンと違って、そこのライフスタイルみたいなものを最初に書いて、暮らしというところで、その下にもうちょっとダウンしたようなところでのサービスであったりという取り掛かりを書くような形で、一つライフスタイルみたいな、金剛っていうのはどういうライフスタイル目指すんですかとか、今の「泉北スタイル」ってありましたけれども。やはり泉北とはまた違って自然も多いですし、駅前っていうのも今みたいに泉北と全然違って空間がわりときっちりとしてて、そこに色んな商業があるわけではないけれども。もっとメインはストリートでもう少し活性化を図るんですよとか。そういうような形でもう少し金剛ニュータウンの目指すようなライフスタイルっていうのをいっぺん書き込んで、その下にこの4つくらいのどういうまちを目指しましょうと。特に、その暮らしのところをもう少し細かく書くのかもしれないですけど、大部分はライフスタイルのほうに上げていく、それで暮らしをもう少しダウンして書いてみたら、という形のイメージ。話を聞いていて、そのへんの金剛が目指すべきライフスタイルみたいなものを打ち出したらどうかと思ったので。

(増田会長)

そのへんが難しいのは、多分一つのライフスタイルじゃないんですよ。色んな選択肢が整っているというのが。子育ての人にとっても魅力やし、独居老人で終の棲家としても良いし。

はい、どうぞ。

(小野委員)

折角なので、今のご意見を受けて、ある意味ちょっと刺激をするために言いますが、私は地域福祉計画の方にも関わってるので、地域福祉計画の方では今キーワードを「増進型」っていうのを掲げようって言ってるんですよ。普通、福祉って言ったらマイナスからゼロじゃないですか。マイナスからゼロで福祉でかわいそうな人を助けるみたいなイメージなんですけどそうじゃない、これからの福祉っていうのはどんな状況の人でもその人らしい生き方できるようにしていこうっていうんでマイナスからゼロへではない、さらにある意味理想の状況を目指すような、そんな福祉が富田林でできないかなっていうことで、あえて一步を無理に踏み出すような感じで、舞い上がるような感じで「増進型」言葉を付けたので、むしろ金剛なんて地域はさらにアドバンテージ持ってる地域なので、そのあたりをもっと示せるようなイメージを掻き立てられるようなものが出てくれば面白いと思いますので、ちょっとあえて挑戦的に。地域福祉計画でさえそのくらいのことやってるんだっていうことを皆さんに共有しておきたいと思います。

(増田会長)

本当に、このいきいき健やかな暮らしというこのあたりがちょっと当たり前すぎるというか。しかもあれでしょ、なぜかというのが私も気になっていたのは、全部これ短期なんですよ、見ていただいたら分かるように。ここ3年でできることが目標とする暮らしかと言うと、やっぱりそうではなくて、短期から中長期に関わる話でないと改善していかないから、短期的課題解決だけで目標となる暮らしにならないと思うんで、中長期の話も入れてもう少し豊かにしていくと。

居場所づくりってものすごく大事で、例えばどの世代、どのライフステージ、あるいはどんな家族型であろうと居場所のあるようなまちみたいな話ってすごく大事で、子どももどっかに居場所があるし、ご老人もどっかに居場所があるし、子育てのお母さんもどっかに居場所があるしって、これ空間の話ではないんですよね。機能とかの話とかではなしに、サービスって言うんですかね。そういうちょっと、縦につながっていくような、1のところで横串に書いてあるやつを縦串につながるような言葉で再生できないかと。

はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

非常に悩ましい課題になってきたなというのが、この「金剛地区再生指針」、金剛地区活性化の以前に、ここに暮らす人たちがどういう暮らし方ができるか、暮らしやすい状況があれば活性化になる、そういう課題があると思うんですが。私は金剛団地、賃貸の方なんで、5030戸のうち、今日URの方もおられるので言葉を濁したいところもあるんですが、実際にはね500戸くらい空き家なんですよ、1割が。それ以上あるかもしれない。そういう状況が今作られてる。47年前にここが入居開始になった頃は20代・30代の人たちが、そののしかもURは入居制限の上が高くてなかなか入りにくいという、高抽選の中での入居始まった。団地族なんて言われた時代なんですよね。それがもう50年近く経って、今は居住者の6割が65歳以上になるんですね。しかも、ほとんどが年金暮らしなんです。その人たちが、今私たちが言っているのは、高齢住宅の入居階層という段階になっているんですね。その人たちがいきいき暮らしていけるというのはどういうことなのかと。私たちが最初に出した自治会の20周年の記念誌、そのタイトルは「金剛はふるさと」。金剛で生まれ育った人たちが出て、外で子育てをしながらまた戻ってくると。2世代、3世代の人たちが住めるような、金剛はふるさとだと。そういうイメージできてるんですね。ところが最近はそのようなイメージが逆に、いつまでも住み続けられる、安心して住み続けられる金剛団地と。それは例えばキャッチフレーズで言えば、「いつまでも安心して住み続けられる富田林」と、あるいは「金剛」。そういうようなイメージになるのかと思いますけど。そういう中で今、先ほど福祉の問題もありましたけど、非常にこういう言い方、井筒さんもおられるのでよくご存知かと思うんですがね、認知の方が非常に増えてきていると。そういう人たちはどうやって自治会として保護していくのか、あるいは団体として、あるいは行政として、どう保護できていけるのか、その人たちがいつまでも住み続けることができるという金剛地区であれば、こういう再生指針の中の一つの大きなテーブルの部分になるのかなと思いつつながら、じゃあどうして、例えば今まで論議の中で駅前再開発とか寺池公園の充実とか、ショッピングの充実とかいろいろ出てますけれど、その中でそういう人たちがどうやって暮らしていけるのか、いきいきして暮らしていけるのかと、そういう基盤づく

りというものが非常に大事なのかなど。かと言って、その基盤づくりどうするのかというのが非常に今の政治の中でね福祉の後退というのがはっきりと表れている中で、この人たちがいきいきして暮らしていける基盤づくりを我々としては再生指針の中でどう位置付けていくかというのが非常に大事ではないかなというふうに、つくづく感じながら、具体的にじゃあどうこうという答えがなかなか見つけられないというのが悩ましいところなんです。そのへんを一つ、どのような感覚で、先ほどおっしゃった福祉施策というのがこの地域にどのような関わりを持っていくのかという意味では、行政との関わりでどうとらえていくべきなのかというのをご留意いただけたらありがたいなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

そのあたりが先ほど言った地域で支え合える金剛ニュータウンとかいうタイトルというかね、そういうのをうたい上げた時に、それは例えば4番のしくみというふうな形なのか、提供するサービスという形の中に入れておくのか、その辺の議論がまだ残されているんです。ただし、どっかで地域で支え合うとか、地域で見守り・見守られるというような構造を作りたいとか、そういう話はやっぱりどっかに入るとかないと。だから、小野先生がおっしゃっていただいた増進型というの、マイナスからゼロの部分を見捨てる話じゃなくて、マイナスからゼロの部分とゼロからプラスの部分、両方とも踏まえて増進型だと、それはどっかで入れとかないと。それと今の世の中、住み続けたいまちが魅力的なまちやというような話でね、どうやってそれを実現できるんやということを皆で頭を絞らないといけないなと。今のご指摘も非常に大事なご指摘で。

あといかがでしょうか。

(市川委員)

銀座商店街から来た市川です。ここにずれるのかもしれないですけども、前回の会議の時にピュア金剛の跡地をURさん自身がどうされるのか、また、銀座商店街で1店舗空いているところを今の現状からどういうふうにされるのかということの質問があって、次回までに返答いただけるということだったので、その返答をまずお伺いしたいなと思っています。よろしいですか。

(藤本委員)

話がちょっとずれますがよろしいですか。

(増田会長)

次の話題にいても良いと思いますので、どうぞ。

(藤本委員)

前回そういうふうなご質問がありまして、社に帰って担当の部署にもいろいろ確認をして参りました。

まず一つ、ピュア金剛に関しましては耐震改修促進法という法律の対象の建物であるということ

で、以前の公設市場が退店された後に一度簡易な耐震調査をしたと。ところがその後、法律がまた変わってですね、再度調査をしようという対象の建物に今なっています。そういったものがピュア金剛以外にも、西日本支社の中でも幾つもありましてですね、これらの建物を一応今年度中に調査をしてしまおうというような計画に今なっています。その結果が出てからですね、あの建物をどうするのか、あるいはあの敷地をどうするのかということを考えていくと、というような段取りになるだろうと考えておりまして、そういう意味で現時点では、答えとしては活用方法は未定だというような状況になっております。

(市川委員)

今年度というのは事業年度ですか。

(藤本委員)

はい、一応28年度中に調査をしようという、そういう計画でございます。

(増田会長)

これ一つはね、たまたま私2週間ほど前、泉北ニュータウンの近隣センターの再生というシンポジウムをしましてね、その時に今日出していただいた資料の何ページでしたか、資料5の4番、これ確か大丸ピーコックが茶山台の近隣センターで、大丸ピーコックが撤退された後の遊休施設。その利用計画を市の方でいろいろ議論されてて、特養が出てきたいと、老人の特別養護老人ホーム出てきたいと。その時に近隣センターの中に特養というので、少し商店会からの反対だとか、地域からの反対もあったと。あるいは、私なんか議論していた時に近隣センターの商業機能は、もう商業機能では無理だから「よろずや」というような形になれないだろうかという、そんな議論もしてたんですね。そんなのを地元でこの特養の福祉施設の人がいろんな地域の人たちと意見交換をして、「よろずや」を作ったと。特別養護老人ホームの、18室くらいあるんですかね。それにプラスここにあるように子どもの居場所づくりのための駄菓子屋さん、それともう一つは買い物支援。そこにはネットの買い物ができるためのインターネットのお手伝いと、市みたいなものをやると。さらにコミュニティカフェということで、ここでいろんな施設の方が地域の方々のための無料イベントを年間何十回とされていると。そんな施設として地域にオンされたんですね。この福祉施設の事業主の方が元々そういう考え方をお持ちで、泉北の中で特別養護老人ホームと子どもの家、これを併設してやってたと、よその場所でね。基本的には子育て施設と老人介護施設と、普通は併設なんかしないのを併設して、交流事業もずっとやってると。そんな経験をお持ちの福祉事業者で、ここでそういう展開をされたと。非常に喜ばれてると、地域で。最終的にここの特別養護老人ホームの園長さんが今、茶山台の商店会の会長に推されて、商店会の活性化の知恵をいろいろ出せと言われてやってますと、そんな状態へ展開してきてて、一つの例として、いろんな意味で商業が商業だけとか、福祉が福祉だけとかいうような時代ではなくなってきた、どちらかという「よろずや」的な機能へどう転換していけるかみたいな一つの例として、今日4ページ目にちょっと入れてもらったと。そうすると地域への買い物サービスという機能、あるいは地域での井戸端会議ができるようなコミュニティの活性化のための居場所づくり、それと老人介護施設。これが合築化されてる

という多機能型だと。こんな可能性もあるだろうというので、今出てきた一つの可能性ですよ。そういうのでこの資料に入れてもらった。

はい、何かございませんか。

(小野委員)

すみません、何回も。まずは福祉の話でさっきちょっと話したんですが、今で言うと、最近は総合型とか包括とかってというのがキーワードだし、方向性ですね。今までは老人は老人、子どもは子ども、障がいは障がいみたいな形だったんですけど、これからはそうじゃなくてもっと総合、あるいは包括的な考え方を入れていこうということで、そうなる施設で言う多機能型ですね、それを地域に作っていくみたいな話。だからより身近なところでいろんな形での利用ができるような場をつくる。さっきの「豊かで多機能な場所のあるまち」というのを、いろんな場所のあるまちみたいな形のイメージが、本当にできればいろんな人がそこ使えるというのが事例の方に載っているということですね。例えば、日本にこれなかったんですけども、カナダなんかのネイバーフッドハウスという、近隣の人たちが集まる、元々それは福祉のところだったんですけど、そこがそれこそ近隣の人たちの場所になって、子どもから高齢者まで、障がいを持って人もいるし、場合によってはホームレスの人たちも来てるという。それが普通に子どもたちがホームレス支援をやっているし、ホームレスの人が子どもたちに学習支援をやっているみたいなね、そんな関係ができて、人々をつなげるような場所がある。一方では先ほどあったような難しい問題があります。それはより広域のレベルで対応して行って、地域のレベルは地域の中のニーズに対応できるような多機能型のものをできるだけ身近に作っていくみたいな、そんなイメージができると、すぐ歩いて行けるような、極端な話、認知症の方の話が出てましたけれど、認知症になっても暮らし続けられる仕組みっていうのはどうなんだろうかというのをその中から見出していくというのがおそらく普通なんだと思います。金剛の可能性っていうのはそのあたりから出てくるのかなと思いました。

(増田会長)

多分この意見交換会なんかでも何が今回の一つの手がかりになったかという、商店会は商店会だけ、自治会は自治会だけという構造をやめて、お互いに話し合える場を作りましょうというようなね、そういうところを呼びかけて、それが一つの手がかりになったと。まさに今日の資料で言うと4ページ目、あるいはこの会議そのものですよ。いろんな背景を持った人たちが、いっぱい違う視点で集まって議論すると何らかの解決策が見つかってくと、それが多分この金剛地区まちづくり会議、これを本当に具体的に動かしたら、いろんな答えが見えてくると。ダイレクトに事業をすぐに引っ張ってこれるかと言うと、そうすぐには引っ張って来れないかもしれませんが、いっぺんそういう答えが見つかるという。例えば住宅問題だけで話をしてる、福祉は福祉だけで話をしているとやっぱりどっかで壁があって、それを打破するためには違う視点の違う意見なり、違うバックグラウンドを持った人たちが意見交換するという、その仕組みが1番早そうだと。そんな意味でこの1ページ目の4番なんかはすごく大事で、これどう動かしていくねんと、本当に。この推進体制ですよ。これが多分来年度から、この指針ができたなら次の段階としてそこが何らかの実行組織として動いていくんやろうと。今の意見交換会みたいな話ですよ。それをもうちょっと発

展させて。そんなところにつながっていったらすぐに答えが見つかるやつと見つからないやつありますけど。

(溝口委員)

その前に先ほど市川さんがね、ピュア金剛の件について、ピュア金剛のあの施設だけではないという、法律が変わって、低層にも耐震補強を形をとる法律ができて、募集停止して耐震をやったところ。ところがピュア金剛だけで今話をしていると、いつまでたってもピュア金剛、ピュア金剛と。何でピュア金剛は、いつまでほったらかしになるんだとということになるんで、もう一つ立ち入ったことを言われた方が良いんじゃないですか。いわゆる施設、エスワンとしての。ピュア金剛だけではないと。まずいのかな。

(藤本委員)

どの話を溝口さんがおっしゃってるのか。

(増田会長)

我々もちょっとついて行ってないですけど。

(溝口委員)

いわゆるエスワンとしての施設。

(藤本委員)

ピュア金剛の建物というのが市川さんおっしゃって、他にも2つ区画があって。もちろん耐震の改修の問題というのは改修が必要かどうかという調査をしますけども、それが出ればその空きテナントの部分も、あるいは1店舗入ってらっしゃいますけれども、その部分をじゃあどうするのかという問題が発生するということに、当然つながって参ります。そのあたりの問題というのもいわゆる家主として今、予定を何かしら持っている状態ではありませんので。そういうこともあって先ほどは、とにかく調査の結果が出てからその次の対応策を考えたいという表現に止どめたというところがございます。

(増田会長)

よろしいですか。何かまだ、喉に骨が引っかかっているような。

(市川委員)

具体的に言ったら、マドンナの跡があるじゃないですか。

(藤本委員)

ごめんなさい、私が直接の担当ではないので。



(中西委員)

正直に言って、URさんの立場は、僕は金剛ショッピングモールなんですけれども、あの中テナントの中で我々が別会社を作って賃貸するところもあると、我々とすればショッピングセンターの中のね業態の整理はしたいんですけれども、やっぱり権利関係というのはそう簡単になかなか動かないんで、そのあたりはやっぱり、多少URさんもそのあたりははっきりは言えないのかなという気がします。

それですね、さっきの話にちょっと戻るんですけれども、地域で支え合うという話で、実はこの間皆さんご協力いただいたと思うんですけれども、金剛バル、おかげさまで大成功で。ご迷惑かけたところもあると思うんですけれども、去年より3割ぐらい増えた。その中で、僕が思っているのは、1回目2回目3回目とだんだん構成、お手伝いっていか、構成してくれるメンバーが増えてきている。自治会さんなんか積極的にお手伝いいただいて、かなりいろんな、バルについてはいろんな組織とお知り合いになれて、コミュニケーションができるようになった。だからこれは、来年、再来年も続けてやることによって、各単組ですね、いろんな商店街、自治会、これのつながりがもっと良くなるかなと。それが同じようにこの再生指針をつくる時点でね、つながっていけば、この支え合いという部分がいろんなものができる。

(増田会長)

そうですね。

これからのまちづくりで言うと、この泉北の中の大蓮公園にしろ、みんな今までお客さんとしてイベントに参加するのではなくて、自分らがプレイヤーとしてイベントにどう関わっていくのかと、なんかそういう形へ変わっていくと、第3者的なまちづくりじゃなしに、一人称としての私としてのまちづくりへ変化していくと。だから、ゲストからホストへみたいな、そんな形へ転換をしていったら、イベントも変わってくるんだろうと思うんですね。それが多分バルで変わってきて、今日北野部長、準備でぎっくり腰になったらしいですけど。まあ良いことですよね、やっぱりそれが定着していくということは。

(溝口委員)

ちょっと、何回もすみません。

ショッピングモールの方の話があったんですが、商店街の活性化というのは金剛団地自治会は昔からねいろんな観点で取り組んでいったんですが、今ふと考えた場合にですね、高槻の富田団地の地域通貨っていうのがありますね、ショッピングモールさんをお願いして金剛団地自治会として地域通貨とは言いませんけれども、いわゆる500円の5%引き、消費税3%の時代から始まって、その時は銀座街も参加していただいて金剛も参加していただいてたんです。それが、消費税がまた5%になった時も、5%まではなんとか自治会も3%負担して、モールさんと商店街の方には2%負担してもらって、それを何とか今続けてきたんですが、8%になったらとても負担ができないということで、今5%まではね500円券を475円で買ってもらうって、それをショッピングモールで使えと。ですから、大きな買い物をする場合にはね、それだけ割引ができるという制度なので、できたら今、金剛銀座街ができてないのでそれをやれば。例えば他の地域の人、今金剛団地自治会

が発行しているそういうものを、他の地域の自治会・町会の皆さんも使えるようなものになればその割引券がモールにお客さんを運ぶ、銀座街にお客さんを運ぶ、そういうことにもつながるのかなと。ただ、町会の方はねその分を負担しなければいけない部分があるので非常に難しい部分があると思うんですが。そのあたりも金剛の商店街の活性化という意味でも、ここにある関西スーパーとモール、銀座街しかないんですよ、中心に。そこがもっともっと活性化すれば、地域全体のまた一つの、テーマの一つの、再生指針の一つになるのかなと。これ非常に難しい問題ですが、もしこういう方向が考えられるのであれば、一つのテーマとして検討していけたら良いのかなと思ってるんで。消費者の立場でもの言って、一つ検討課題にしてもらえれば。

(中西委員)

我々は逆にショッピングモールは、あの券使ってますよね、今。ただ、流通量が非常に少ない。ほとんどの方がご存じない。この状態を何とかしないとあの券は逆に言うと意味がないという。うちの店でも1か月に1人かなという感じなんですね。まとまったものを買われるのでご存じの方はお使いになるみたいなんです、一般的な流通としては多分、例えば金剛団地の中の8割くらいの方がご存じないと思います。

(溝口委員)

いや、知ってはいるんだけど買いに来るのがめんどくさいんじゃないかな。自分で事務所に買いに来なきゃダメなんで。わざわざ5%引きのを事務所まで買いに行ってお買い物するという、そういう手間を考えたらもう5%くらい良いわというような今の状況なんです。

(中西委員)

そのあたりですね。だからそれが流通量が出れば、別に私どもはそんなに今のところ。逆に言うと負担も流通量が少ないから少ないということなんで、大体良いかというところでやってるんですけども。

(増田会長)

だからそのへんがね、ここに書いてある商店街の活性化なのか、あるいは生活拠点の活性化なのかね。純然たる商業機能が、これから購買力が高まって、個人消費がすごく高まっていったというようなことはないってことですよね。どんどん家族が少なくなっていった、だんだん年取って食べなくなっていった、だんだん消費量が減っていくと。そういう時の中での活性化って一体何かというのはやっぱり、皆が何回となく訪ねてくれるとか、そこで会話の場所が発生するとか、そういうのがやっぱり。この頃いろんなところでコンビニなんかもね、ポツポツ、コンビニの一角にテーブルを置くようなコンビニが出てきてる訳ですよ。どないかしてそこが時間消費ができるような場所になっていくと。今までコンビニというのはそういうのを排除するのがコンビニだったのが、この頃そういうコンビニが成立してきててね、どないかして時間消費するとか、そこで何らかの交流の機会とかが得られるとか、そういう方向へ多分商業の展開も変わっていくんだろうと思うんですね。単純に物の売り買いだけではない。そんな商業像みたいなやつをここでちょっと書かれへんか

など。それが一言で商店街の活性化という言葉なのか、もうちょっと違う言葉に置き換えられへんやろうかとか。

(溝口委員)

そういう意味でね、今ショッピングモール1階の部分でベンチがある。そこが憩いの場になっている。

(増田会長)

そうなんです。そういうところがより活性化していくような視点で書かれへんやろうかと。

(溝口委員)

何かのイベントがあるとあそこが使えなくて困るというお年寄りもいるんです。

(中西委員)

逆にあそこは難しいところで、おっしゃったように私どもの1階のフロアにベンチが置いてあるんで、ほぼ毎日のように高齢者の方が集まるんです。それ自体は良いんです。うちもその方だけのためにという訳にはいかないんで、1か月に2回イベントしてるんです。1回は子どもさんを対象にして、お母さんと子どもが来ていただくというのが大事なんで、それでイベントをするとそのスペースを使うのでその時にお年寄りが「座る場所がない」と。よそには置いてるんですが、どうしても分散してしまうので。そういう問題もありますね。

(増田会長)

そういう時に、より公共的に使える場所をね、どうやって見つけていけるかということだと思っ  
んです。その時にそれを補完できる公共的なスペースがあったらね、それで補完できる訳やし。  
あるいは、そういうところを小学校の空き教室でできないかとかね、そういうイベントの方はね、  
むしろ。

はい、井筒さんいきましようか。

(井筒委員)

すみません。今、お話聞かせてもらいまして思ったのがですね、言うように、もちろん商店街を  
活性化させることってすごく重要ですし、それがあつて若い世代も取り込めるってということも  
あるんですけども、長く生活する中でやはりその場所に行けなくなるっていうことが出てくるか  
と思うんです。それはお年がいかれるというのがありますし、障がい者になるっていう可能性も、  
いつでも誰でもありますので、そういうことを考えた時に言われてたみたいに、身近な場所で集ま  
れる場があれば良いというのが、実は私たちの中でアンケートを取らせてもらってまして、その中  
で、元々は、紹介になるんですけど、富田林市生活支援等サービス体制整備協議体という中で、高  
齢介護課と国立社会保障人口問題研究所の川越先生が「金剛地区における社会参加と生活支援に関  
するアンケート」というのを、平成28年1月に取ってくれていまして、要介護3から5を除く1

400人を無作為抽出で、855人の方が61.1%の方が回答してくれたという中でもね、その中でも生活の困りごととか取ってくれたりとか、集会所の活用というのもアンケートを取っていただいているんですね。生活の困りごととしては重いものの運搬、パーセンテージでは少ないんですが7.6%で困ってる方が多くて、例えば注文販売、生協さんのような個別の販売とかですね、あとコンビニさんとかスーパーの配達、こういったものを今後利用したいかっていうのも取ってくれているんですね。こういう注文販売を利用したい方も約15%いらっちゃって、配達を希望される方は約3割、今後利用したいと書いてるということなんですね。集会所の活用というのも、自分が利用したいプログラムがあれば利用したいという方が約半分、5割いるということで、内容的には朝市が26.7%、講演会・講習会21.9%、フリーマーケット14.5%等というような結果がでてるんですね。こういう結果を見ながら考えていたのが、近くのところ、身近な場所で。

ごめんなさい、話が前後しますけど、けあばる金剛でもその後「つどいの場アンケート」というのを、相談に来た方とか、市川先生とか中西さんとかご協力いただきまして、関西スーパーの中で取らせていただいたりとか、お店の方で取らせていただいたりしたんですね。その中で、つどいの場があれば行きたいというのが74%の方がおっしゃっているんですね。こちらでも内容は「おしゃべり」が19%、「カフェ」が15%ですね、「趣味の活動」が18%ということで、場所とかそういうのも聞いているんですけども、結果的に「身近な場所でいつでも誰かと交流できる場」が週1回程度あれば良いような結果が出てるんですね。

ということを考えると、やっぱり自分たちがショッピングセンターとか行けなくなった時に、近くのところでそうやってちょっと買い物ができたりとか、集えたりとか、ある程度生活の最低のことができる場が近くにあれば良いのかなというのを聞いてまして、今のこの紹介された活動の中でもですね、例えば集会所さんとかで朝市をやったりとか、そうやってネット販売とかですよ、金剛ショッピングモールさんの中のところネットとかで注文できて届けていただけるとか、そういう仕組みとかやり方というのも同時にしていくと良いのかなというのを感じたところなんですね。すみません、話がまとまってないんですけども、そういうところでずっと住み続けられるようなまち、どんなまちに住みたいかというところで、さっき岡本さんとか皆さんとかがキャッチフレーズ言ってもらってたんですけども、やっぱりふれあいのあるまち言うんですかね、さっき通りの名前ありましたよね、あのふれあいっていうのもすごく大事な要素だと思ってまして、向こう3軒両隣みたいな形で皆さんが少しづつ気を遣ってくれて、何かあったら救いの目があるというか、地域の方が助けてくれたり、そこから包括支援センターとか市役所とかそういう関係機関にきちんとつないでもらえるような、助けてもらえるような仕組みっていうのがすごく重要なのかなと思ったんですね。ですので、言ったみたいにこの4番「住民がまちを育む仕組みのあるまち」、こっちのところに今のが含まれたりとかいうのがあって、1番の「いきいき健やかな暮らし」というところがあって、これを見てるとここの中に含まれていく部分も大きいのかなと思ってまして、だから今いったところ、居場所づくりであったりとか世代間交流とか地域のつながり、住民同士の交流ですね、こういったところに含まれる要素も多いなというのを見て思いました。

(増田会長)

ありがとうございました。

はい、岡本さんどうぞ。

(岡本委員)

今その個別のアンケートの件なんですけど、さっきの増進型地域福祉っておっしゃった、小野先生が座長されてる「地域福祉行動計画」の委員をさせていただいて、確かに今話ししてることでそこでの議論とすごく似てるなと思っています。そこで和田さんとかがファシリテートして、なんと小学校16校区の校区福祉会議というのうちの私、4小学校区に出させていただいたんです。そこで何があれば豊かになるかみたいなことを住民の人とか、いろんなそのプレーヤーですね、担い手の人たちが集まった会議というのをしたんですけど、ものすごく共通してるんですね。いろんな地域性があるんですけど、今井筒さんがおっしゃった、人はやっぱり居場所を求めているんだなと。居場所って言ったときに空間としての場所があれば良いんじゃないかと、そこに行って、自分が安心して行って排除されない、自分が行って良いんだって思える場所、そういう場所をすごく求めているし、めんどくさいけどもやっぱりどこかでつながりを求めているというのが共通していると思います。そこで、防災とか防犯という話題も出てくるんですけど、結局仕組みがあったら助け合える訳ではなくって、つながりがあるから助け合えるよねって、ぐるっと問題が一つね。その防犯というものも、知り合ってなかったら機能しないよねみたいな話になって、結局のキーワードは「自分が安心していられる居場所」だったり、「つながり」というところがキーワードなんだなということをおもいだしたので、そこを今言おうとしたらまさにそれを言っていたらいい。

私たちがやってる子育て支援のNPOの始めも、保育所に行っていない8割の親子が在宅でいると、そこでつながりが作れなくて孤立してて虐待にもなってるみたいな社会現象が20年くらい前から起こり始めて、そこを人工的にでも寄れる場所を作っていきましょうっていう事業だったことを思い出すと、そこを親子に限定せずにいろんな人の居場所っていうものを、子どももね、この金剛地区の中で課題いっぱいあるなと思うのは、ものすごく裕福なところとひとり親がいっぱいっていう小学校区の先生が悩んでるようなところもあって、子どもの居場所っていうのも実はこの中ではスコンと抜けていてるんですけども、子どもだけが例えば300円持ってごはん食べに行ける場所って金剛エリアにあるかと言うと全然なかったりとか、それは別に子どものためだけではなくて、ひとり暮らしのお年寄りであっても使える場所であつたら良いなあとか、そんな感じでイメージしていて、そんなものがどこかに生まれないかなと、もちろん配食も大事だけれども、寄って行ける場所、排除されずいられる場所、というものをもっと具体的に、思い始めました。

(増田会長)

どうぞ、寺田さん。

(寺田委員)

さっきから、30分ほど前から岡本さんに、若者として何があつたら金剛地区に引っ越したいのかということ、小さい声で横でずっと言われてたんですけども。僕は今20代なんですけれども、いろんな会議に出させてもらって、基本的に僕より年上の方が、若者がどうやったらこの地域に来るか、富田林に来るかというのを話しているのを聞いていて、これが僕自身の感覚なのか若者

の感覚なのかは分からないんですけども、そこに何かあるから行くとかっていうよりも、その近くに自分の仕事をする職場があるとか、子育てする人って子育てしやすい場所とかっていう感じで行くと思うんですけど、僕は今家族っていうか子どももいないですし、なので、子どももいなくて高齢者でもないという、分類分けするとあまり注目されていない場所にいるので、僕の感覚でいくと、特にまちを見てというよりも、職場が近いからここに住むとかっていう感覚なので。ターゲットというのを考えた時に、僕が地域活動というのと高齢者の福祉っていうのを見てるのもあって、あまり出てこない意見として高齢者が主役のまちづくりというの、もっと推していっても良いんじゃないかと思っていて。1番多く出てくるのって、若者をまちに呼ぼうという意見が多いなど、どこの会議に出てても。でも、これから増えていくのは高齢者で、商売とかの観点から考えても、これからユーザーが増えていくところを狙っていくのが当たり前だと思うんですね。高齢者がこれから増えていくんだったら、高齢者が住みよいまちっていうのを1番に推しても良いんじゃないかなっていうのがずっと思っていたところで。それは生産力とかを考えたら難しいのかもしれないですけど、「富田林は高齢者が住みやすいまちです」っていうのを、もっと全面的に出していっても良いんじゃないか。今の60代の人って、僕よりも元気で忙しかったりするんで。60、65で現役じゃない、ではなくて、そこから地域で活動が始まると思うんですね。そこから20年、30年、地域での活動が始まるので、それこそ50代・60代でちょっと今住みにくいから富田林に引っ越そうかなという人をターゲットにしても良いんじゃないかなというのが、僕が最近小さく思っていることなんですけど。ここからどっか膨らませていければなど、皆さんのお力で膨らませていただければなどと思うんですけども。

(増田会長)

例えばね、ここで言うと4の1、目標の4の1がそのあたりを言いたいんです、本当はね。高齢者の方にとっても生きがいとか、社会的役割が終わった後も生きがいとかやりがいを持ち続けられるようなまちにしたいと。そのへんが今、私が説明しないとそれが理解してもらえないと、この1の4がそれを表しているのを理解してもらえないと、寺田さんに。そのへんが問題だと思うんですね、この資料の作り方として。そのあたりが分かってもらえるように、先ほどから出たライフスタイルとか、どんな暮らしがここでできるんですかと、高齢者の人がやりがいを持って何かチャレンジできるようなまちですよ、とかね。それを横串とすれば、縦串はどの世代にとってもチャレンジできるようなまちであったら、高齢者にとってもやりがいのあるまちになるだろうし、若い人にとってもチャレンジできるようなまちだったら、空き店舗があればそこでチャレンジショップやってみましょうか、とかそういうことにもなるだろうし。世代を切っている話を、縦に切れるような暮らしみたいなやつを1で整理できたら、今おっしゃっているような姿がね、もうちょっと目に見えるような姿に、この資料ならないかなと思いますけどね、膨らますとすればね。おっしゃっていることはすごく大事で。

後の時間もエンドレスではないので、今日、ご発言いただいてない原山さん、それとその次の山田さん、最後に副会長の中井さんにいただいて、まとめにそろそろ入っていきたいと思うので。

(原山委員)

はい、原山です。この骨格ね、ものすごく素晴らしいものを書いてあるんですけどね、これ絵に描いた餅にならんようにね、ちょっと難しすぎると。僕もね、ここに入って来たのが昭和40年に入って来たんですけど、当時はやっぱり時代で、近所に若者ばかりで、活気のある素晴らしい団地だった、良かったんですが、ここ50年経って今、富田林、この金剛地区でもね、高齢化が30%超えてると、その中でどうするのかと。そしたら、金剛地区全体を見たら広すぎてね、なかなかまとまりにくいだろうと、思ってきた場合私地域で福祉委員会やってるんですが、福祉委員会が金剛地区でもあるんですが、富田林全体で70個あるんですがね、その中で地域、地域だったら高齢者、皆さん集まってくるんですよ、地域の集会所、僕らでも毎週、月に4回ほどやってますけど、URさんにも半分は無料という形で援助されてるのは本当に助かってるんですが、その中で全体まとめるってなかなかまとまらないからね、連合式な方法をやってまとめていかないとね、素晴らしい意見いただいたけど、金剛地区全体をまとめようとするとう無理だと思います。それを言いたかったけど、折角皆さん方が良い意見発言されてるのに水を差したらいかんなと思って控えとったんです。だから、やっぱり連合型を作って、単位単位でやっていかんとなかなかやっていかれないと。

それとさっきの話戻るんだけど、寺池の公園もあったんですけど、あそこも若い皆さん方が散歩できるように工夫してもらって。それからトイレがないんですよ、高齢者が行っても何もできない。そこらも整理してもらったら散歩者も増えてくると。散歩してもトイレがないから年寄り1番困るんですよ。だからそういうところも工夫してもらえたら、市の皆さん方にも市もそこらのことできるんかなと。例えば寺池の周りにトイレを早速作ってもらったらね、花見とかいろんなのもきれいなんですよ。散歩できる、狭山池をモデルにしたような、なんとか先にやってもらって、皆さんが集まってもらえるようなことやってもらったら良いんかな。自治会としてもあそこで花見もやってますし、花見するのが公園の一部なんですよ。全体がぐるりと周れるようになっていたらものすごくできるし、散歩の道作ってもらおうと。そこをやってもらわんとあかんと。前回も言ったと思うんですが、単位単位、自治会・町内会バラバラではあきませんからね。もっと大きくまとめてというのは無理があると思うから、連合型でやってどうかと。例えば校区にするか、どうするか分からない、次の課題であって、連合型でやってこの金剛地区の再生に向けて検討していった方がね、手っ取り早いんじゃないかなと思ってるんです。もう言いたいことはありません。

(増田会長)

そのへん悩ましいところなんですよ。ちょうど一つで会議を作ってもいけるような大きさやし、せやけど小学校区やとかいろんなんで言うと、もうちょっと分割した連合体にしといた方が良いという規模でもあるし、ちょうど難しいところやから、そのへんはいろんな議論をしましょうかね。単位としてはすごく大事やと思うんですよ。とりあえず、単組だけしかないの今、連合いるやろというのは今までずっと確かな話やけど、それをどの単位でね、校区で切るのか、あるいは一つの地区として見るのか、このあたりがちょっと悩ましいですね。だから、校区で一つの会議体を作って、一つの連合体をつくるっていう考え方もあるだろうし、大きく会議を構えといて、課題によっては校区単位で議論してもらおうっていうやり方もあるだろうし。なんかそのへん、考えないといけないうすね。

(原山委員)

私とこは寺池なんですけどね、寺池小学校区として福祉委員会も立ち上げてるんですよ。そこで子どもから全部やってますし、月1回は学校の多目的ホール使わせてもらおうとか、集会所使わせてもらおうとか。いつも参加者がしゃべりに来てくれてやってますがね、やっぱり活性化してます。そこに高齢者の方も障がい者の方も皆来られてます。それを楽しみに。その方が例えば金剛駅で、高辺で中央集会所やったら足が痛いとか、行きにくいとかいういろんな問題があって、自分とこの近くやったらっていうと参加しやすい。その中で防災から防犯、それからいろんな問題も協力してもらって、イベントやって研修すると。助けてもらおうと。

(増田会長)

校区がベースで議論できる形態と地区全体として議論できる、これ両方ともいるやろうと思うんやけど、それをどう上手く噛み合わせといたらいいかというのはちょっと頭絞らましようかね、皆でね。本当の意味で単純な4の2のこの推進体制で本当に良いのか、今言ってるような問題に対してどう考えるのか皆でもう1回頭絞らましよう。大事な話ですので。やっぱり校区がベースで動きやすいよってという話なのか、どうなのか。

(原山委員)

連合型でやってたらね、最終的には役員さんが全部来て話し合いしたらいいんですからね、結局まとまるんやから、全体的にね。

(増田会長)

そういう地縁型コミュニティの持つてる良さと、それでは小さすぎて、テーマで集まってる、子育てグループだけで集まってるようなことを言うと、もう校区を超えての仕組みを持ってないと、校区の中で固めてしまうとちょっとしんどいというところもあるし、両方ともあるんですよ。だからそれにちょっと皆でいっぺん頭絞らましよう、どんな形を作ったら上手いんか1番。ありがとうございます。

えっと、山田さんどうですか。

(山田委員)

久野喜台二丁目山田です。皆様のご意見聞かせていただいて、本当に皆さんいろいろ考えがありということで本当に勉強になります。

そもそもまちづくりというのは、昔はやっぱり行政主体と言うか、そんなまちづくりが多かったと思うんですけども、昨今地域住民の主体のまちづくりにやっぱ変わってきていると思うんですね。まさにそれが、今回の金剛地区再生指針の策定の協議会と、ただ地域住民が主体となると、結局、例えばまちづくりにはソフトとハードありますけれども、ソフトはやっぱり皆さんが動いていただいてあまりお金をかけずにできると思うんですけども、ハードの部分というのはお金がかかりますよね、それをこの地区の再生指針にどういうふうに加えていくのか、やっぱり人の集いと公園だけでも整備が遅れているところがあったりとか、それは行政であったりURさんがどういうふう



地域住民と手を取り合ってハード面をサポートしていくのかというのが、非常に重要になるかなと思うんです。もちろんこの地域、建物の老朽化も激しいですし、今URさん、URさんばかり言ってますみません。ピュアの問題とか。私もこの地域に来て2年になるんですけども、何ですと閉店したままで何も活用せず、どっちかと言えば一等地ですよ。あれをなんで、放置してないと思うんですけど、放置しているように見えるんですね、知らない人は。そのへんとか、後は、URさんが全国的にやっている団地再生ってありますよね。あれは、今この辺やったら大規模な白鷺団地ありますよね、あれは民間売却とか、URさんも民間ですけど、民間売却とかそういうプロポーザルとか、そういうのでやってはりますよね、それを金剛地域に対してどういうふうにしていくのかというのがあるのかなと、あとは、第二住宅とか第三住宅は分譲なんで、その7棟と10棟ぐらいあるんですかね、そこの住民さん、URさんがやってくれないと言えばあれですけど、であれば自主的に建て替え促進であるとか、あとは複合的な建て替えですね、例えば住居だけではなくて商業とか老健施設を入れるとか、そういうふうな形でそういうのを一つ進めていってもいいのかなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。時間も時間なんで副会長に少しご発言いただいて。

(中井副会長)

発言しようと思ったんですけども、副会長の立場であんまり話したらあかんかと押さえておりました。今いろいろお話あったんですけども、再生指針のほうに話を戻させていただきまして、再生指針で今後のまちのあり方を決めていくものですけども、これを実践していかなければあかん。その仕組みというのが4番にある仕組みだと思うんです。これをいかにうまく作ってやるかによって先ほど先生がゲストからホストといいますか、観客からプレーヤーに変わることになると思うんですけども、これはこれでいいとして、1番で先ほど縦割りという話があったんですけども、私見てまして、1の1と1の2というのは高齢者と子どもと分けてますけど、これは逆に中身を見てるとですね子どもから高齢者までといいますか、世代を渡っての話が書いてありまして、これ一本にして世代間での役割分担みたいなものを含めて、一本にまとめてもらえば、今言われていた縦割りというのはちょっとイメージが消えるのかなというふうなイメージを持っています。中に書いてあることも1から3まであるんですけども、同じようなことなのでまとめようがあると思うんでね。そうすると、金剛団地というものが子どもから高齢者まで障がいのある人も含めて、うまく暮らしていける場というものができていくんだと、この1、2、3というのがどちらかというツールみたいな話で、4がそれを動かすエンジンみたいな話ですので、そのへんうまく4番をもう少しこう、具体的に書くことは難しいのかも分かりませんが、もう少し人影を出すというイメージを持たせてもらったらいいのじゃないかなと。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。そしたら今日のやつを取りまとめて、どういう方向で少しこれを修正するかというのを、皆様方の意見の中で、順不同ですけど話をしたいなと思うのは、まず一つ

は、背景と目的が活性化が目的ではなくて、活性化によってどんなまちを目指したいんかという論調で整理できないか、というのがこの再生指針のとはとか位置付けとかいう話ですね。再生指針というのは、こういう目標像のまちに向かって皆がどういう行動をとっていただいいんですかという行動規範を示すのが再生指針ですよと、そんな論調で0番のところをやっていただいたらどうやろうかと。

で、1番のところ、その次の金剛地区の魅力と克服すべき課題、ここ多分今日は日本人の悪い癖で課題からスタートするんですね。良いところいっぱいあるのに、良いところ書かずに課題ばかりからスタートするので、ここに書いてあるように金剛地区の魅力と克服すべき課題やから。まず金剛地区の魅力ってどうなっているのと、多分資料5の方も現状といって出てくるのは、現状これ全部課題の現状であって魅力の現状でないんですね。どこに金剛地区の魅力があるねんと言うページが当然あっていいわけで、そういう話を、そこちょっと充実させましょう。金剛地区の持っている魅力、やっぱ50年間、40年間なり住み続けたということは大きな魅力やし、そこに時間を重ねてきたというのは大きな魅力ですし、色んな多様な階層の方々いらっしゃるといいうのも魅力やし、そう意味での少し魅力というところを整理すれば、気の重くなる課題からスタートすると、非常に気の重くなるような報告書になるので、魅力のところからせめてみると。

2番目の所のキャッチ、これは色々いただいたんで何個か案、今日いただいたキーワードを使って何個か案を整理してください。これは皆でもう一回議論しましょう。こんな金剛ニュータウンと一言でいえばどんなニュータウンやと、というのは皆で議論しましょう。

その次の一番今日の議題になったのが2ページ目の2番と3番は比較的きっちり、だいたいこれは個別に対応しないと仕方がないので、住まいという一つのハードなり仕組みなりと、豊かで多機能な場所と、この場所についてはやっぱりパブリックなスペースがどううまく機能増進していけるかと、この施設も含めてですけれども、そういうふうな意味とプライベートなところでも、セミパブリック化というか公的な利用ができるようなという、これで大体いいんでしょうけど、この辺りはいいとして、1番と4番ですね。これはちょっとやっぱり複層してて、4番は仕組みは仕組みにしといてもらったほうがいいと思うんですよ。これ4番仕組みになってないんですよ。だから、地域の生活を支えあらたな魅力を創出するまちというのは、これは極端なことを言ったら、ようするに住民等が主体となって地域の生活を支え、新たな魅力のあるまち、あるいは新たな魅力のある暮らしがあるまちやというタイトルですよ。ということは一番に入っちゃうと。それをやるためにはいったい何をしないといけないんやと、どんな仕組みをつくらあかんのやと。住民が主体となった活動がというのが多分仕組みなんです。住民が主体となった活動というのはどんな仕組みで作ったらいいねんと、これ多分仕組みといいながら仕組みではなくて暮らしの目標像みたいに、最初にご指摘いただいたようになっているんですね。だからそのあたりの部分の整理、1と2の整理をもうちょっとしたら、4のところに金剛ニュータウンの持つ魅力の目標像みたいなやつが書かれているんですよ。4のところに。例えばこれ、多様な交流の機会により人・コミュニティ・地域魅力が成長し続けるまちと、これ言いたいのは何かと、成長するという仕組み、常に改変をしていくための仕組みを書くのか、あるいは魅力があるという、人・コミュニティ・地域魅力があるというまちにという目標像なのか、そのあたりがものすごく混同しているんですね4番ね。だから4番のほうはかなり総合的ですから、あるいはこれでいうと4番と1番合体したような話で、皆さん方か

ら出ている話で言うと、例えば居場所のどの世代にとってもどの家族型にとっても居場所のあるまちだとか、あるいはどの人にとってもつながりのあるまちやとか、あるいはどの人にとっても、子どもにとっても、老人にとっても チャレンジできるという何かやりがいを感じられるようなまちやとか、そういう話を1番でしっかり整理して、そうしたらどの世代もやりがいを感じられるまちにするためには、どんな仕組みをつくらなあかんねんと、チャレンジする機会を作りましょうとか、コミュニティビジネスを興していくような機会をつくりましょうとか、そんなのが仕組みの方で、何かそんな4番と1番、ちょっとそんな視点で整理していただいたら、今日皆さんが言われている話に整理できるかと違うかな。それが一番大きなところですね。

もう一個最後4番のところ、この推進体制、一番最後に大きなご指摘をいただいて、1つは市の役割をここにどう書くか、URとか南海電鉄と一緒に賛助会員ではないだろうということは確かやと、市はね。ではどういう形でこの会議と関わるかというのはもうちょっと具現化しといたほうが良いという話の一つと。もう一つは単位ですよ、校区という単位と金剛地区と言う、この地区と言う単位があって、そのやりとりどうやったらいいんやと、この辺りはちょっと頭を悩ませて、4の推進体制のところちょっと議論、あるいは何個かの選択できる何パターンか作って、それでどれが一番いいやろかというのを皆で議論する方がいいかもしれません、一つの答えではなくて。そのへんのことを改善しましょうか。まだ、次回の1月までにもう一回あるものですから、あるいは意見交換会も途中でありますから、今日言った辺りを少し。

で、多分資料5の方は、あんまりどうのこうのより適切にどこに事例を入れていくかと、本編の中で。しかもこの中のいったい何を見てほしいのかというのを書いてほしいですよ。例えば一番最初の話で言うと、まちづくり組織と拠点施設の事例と書いてあるのは、これは例えば、公共と民間と大学というこれが一つの仕組みを作って展開しているということが大事なのか、あるいはようするにどっかにそういう施設を整備したということが大事なのか、あるいは施設も整備し仕組みもつくったという二つともが大事なのか、我々としてはどっちをこの中で学ぶんやと、多分施設をつくるということはある学べるべき点ではなくて、金剛と言うのは割と遊休の施設がいっぱいあるので、多分このページから学ぶのは、どちらかという、今もワークショップしていただいている大谷大学ひっぱってきてこんなことやるのかとか、何かどう仕組みを勉強するんですかとか、何をこの事例から学ぶんですかみたいところをちょっとマーキングをしておいてもらって、事例として使うと、そんなところを修正いただくとありがたいなと思います。よろしいですかね。

ちょっと大幅に30分もオーバーいたしましたけれども、今日はこの施設30分くらいまでやったら大丈夫と聞いてたものですから、よろしいですか。そしたら、今日の議題は大体終わったかと思しますので、少し事務局の方にお返ししたいと思います。

ありがとうございました、今日は。

(事務局：坂口)

本日は、ありがとうございました。

事務局の方から、次第では2の4となりますけれども、次回協議会の開催についてご報告させていただきます。次回の方日程決まっております、来年、平成29年1月19日の木曜日、午前10時～、こちらのこの場所で開催させていただくということで、申し訳ないですが決定のほうさせ

ていただいております。

次回協議会のほうでは、本日いただいたご意見等をもとに、指針の素案の取りまとめを進めさせていただきまして、その案をお示しさせていただく予定です。そこからまた皆さんのご意見をいただいて、パブリックコメントもその後実施していくことになると思いますので、また次回の会議で、いろんな選択肢の中からこれって形、選んでいただかなければならない部分出てくると思うんですけども、またご協力の方よろしくお願ひいたします。

この協議会と並行いたしまして、次回意見交換会、これ住民の皆さんに入っているワークショップなんですけれども、これが12月17日の土曜日の13時から、こちらのほうは金剛連絡所の2階で開催させていただく予定です。委員の皆さんは、またよろしくお願ひします。ご案内の方は、また別途させていただきます。

それから、最初話題となっておりました、大阪大谷大学さんのまち歩きワークショップ、それから大学の方で追跡の研究等していただいているんですけども、その成果発表は、今のところ1月21日土曜日の午前中ということではほぼ決まっておりますので、もう少し大学側と調整したうえで、意見交換会とこの協議会と合同で、学生さんの発表を聞くという機会にしたいと思っておりますので、また学生さんと意見交換できるような場も作りたいたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あと一件報告なんですけども、先日の26日の土曜日にこのスポーツホールのあります金剛中央公園で、金剛地区の賑わい創出やふるさと意識を醸成するイベントとして、「金剛バル★ウィンターランド」が開催されました。たくさんの方に参加していただき、賑わいのあるイベントとなったんですけども、この会議にも実行委員会の市川会長はじめ、多くの皆さんが参加していただいておりますが、大変お疲れ様でした。また、ありがとうございました。

イベントは、26日だけだったんですけど、駅前の少し先から中央公園まで、イルミネーションのほう、こちら来年1月22日まで点灯しておりますので、皆さんぜひご覧になっていただきたいと思ひます。

実は、このバルのイベントには、住民さんのワークショップの金剛地区意見交換会のメンバーでも出店をさせていただきまして、飲食物の販売とともに、活性化の取り組みについてのアンケートも若干行いまして、今あそこにはっているのが、簡単にシール、金剛地区に必要な取り組みは何ですかとか、自分のお手伝いできることは何ですかといったことを、買いにきた人にシールをはってもらったんですけども、子育てとか高齢者支援というのが皆さん興味があるところだったのかなという結果でした。

会が盛況だったということで、3000人を超える方が来て、売り上げもそこそこあって、これからそれをどう使うかは、また皆さんに相談させていただきたいと思ひます。

何よりも、住民の皆さんと一緒に楽しみながらこのイベントに参加できたことが、成果であったと考えております。以上が報告です。

あらためまして本日は、長時間にわたりありがとうございました。また次回よろしくお願ひします。